



くらし 子育て 防災 3つの安心 届けます

「崖の補強工事に1億円かかる。どうしようもありません」



音羽1丁目の傾斜地を調査する小竹ひろ子前都議
と板倉美千代・金子てるよし区議会議員

「首都縦断活断層。田端↓飯田橋↓四ツ谷」の存在も指摘されているなかで震度七にたえられるか心配です。

文京区は、国土交通省基準として「急傾斜地危険箇所」（人工面三六、自然斜面一一）を指定しています。

擁壁の耐震診断を無料で 自己責任でなく 耐震補強に抜本的な助成を 小竹ひろ子

現地調査には、住民から「壁の補強工事は数千万円、一億円もかかります。でも、そんなこと（自己責任）言われてもどうしようもありません」の声がありました。危険箇所の耐震診断（無料）、工事歴の掌握、そして、耐震補強工事への思い切った助成など「公助」の抜本的強化が急がれます。

先日、つどいのお誘いにも関わったところ、消防団の役員さんからは「出動が結構多いですね」（消防訓練のほか）区から防災訓練の依頼もきています」「若い方にもっと参加してほしい」などの声が大げさな、一月の千駄木三丁目（大型消防車が入れなかった木造密集地域）の火災が話題になりました。建設会社では、「崖の補強工事で見積もり依頼があるが、工事費用が高くなるため個人の負担では難しく、仕事までにはならない」「地元に限らず建設業として防災には力をつくすつもりです。つどいは参加してみたい」などの声がありました。

ぜひとつどい（裏面参照）参加をしていただき、ご意見をお聞かせ下さい。



小日向2丁目と音羽1丁目との境の崖。「ひび割れがあり、木の根が生え出すなど崖の強度が大丈夫なのか心配です。他の崖地では大谷石が積まれただけのところもあり、きちんとした診断と対策が必要だと思いました」

十四日、つどいに向けて、消防団役員、町会長の皆さんを訪問、参加のよびかけと要望・意見を聞きました。



二九消防団、建設会社一〇社を訪問、一五五の町会へご案内状を届けました。

十九日（火）、文京区のがけ地が地図上でどのような状態になっているのか、詳しく調査するために、国土地理院に地図の閲覧に行ってきました。豊洲の土壌汚染調査でお世話になった坂巻幸雄先生に案内をしていただきました。小日向、大塚、千駄木のあたりのがけ地や、住宅密集地を古い

ひろ子かけ歩き活動日誌

地図を検索して調べ、歴史的な経過を調べました。明治十二年、四二年に測量した二万分の一や一万分の一の地図をパソコンで、見ることが出来ます。古いものから新しいものまで、年代別にも検索出来ます。現在の地図と昔の地図を比較し、一メートルごとの等高線の高低の変化で、現在の土地が、盛り土された崖なのか、切り土された崖なのか分かるそうです。細かく町名ごとに調べるのは大変ですが、大災害の危険を防ぐためには必要な作業です。

なくなった町名の昔の町の様子が変わり、感激しました。私は考古学のフィールドワークで、地図を見ながら作業をしていたので、大変興味深く何時間でも見ていたい、と思うくらい楽しい作業でした。

国土地理院の係りの方は、もっと皆さんに利用してほしい、と聞いていました。